

ニガキ科 ニワウルシ属

ニワウルシ (庭漆)

Ailanthus altissima (Mill.) Swingle

総合対策
(重点)

自生環境

河川敷、水辺、林内 など

原産地

中国

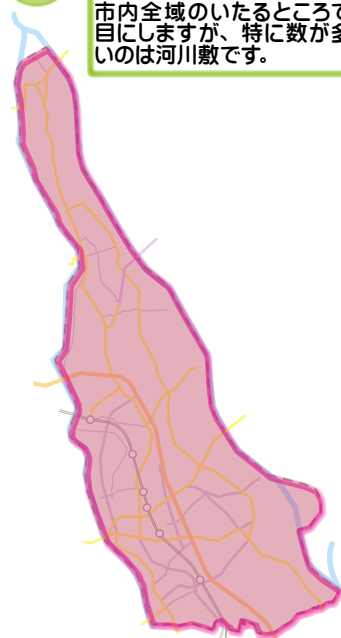
予想される被害

駆逐

タネでよく増え、成長も早いいため、あちこちで野生化しています。「ニワウルシの林」もできていますが、これは地域本来の植生ではないため、生態系への影響が心配されます。

市内の分布状況

市内全域のいたるところで目にしますが、特に数が多いのは河川敷です。



特徴

☆ シンジュ（神樹）とも呼ばれます。日本には明治時代の初めに渡来し、成長が早く育てやすいこともあり、街路樹や庭木として栽培されていました。名前のニワウルシは雰囲気（ウルシ）に似ていて庭に植えられることになみず。

☆ 一方で増える力がとても強く各地で野生化しています。特に河川敷に多く見られます。葉痕（葉がついていた痕）がとても大きく目立つのが特徴のひとつで、冬期はさらに存在に気づきやすくなります。樹高は10～25mほどになります。

☆ 雌雄別株です。雌株は花後、枝先に細長く平べったい果実を多数つけます。平べったい部分は翼（よく）で、よく見ると中心付近に小さな点が1つあります。タネはその中に1個入っています。果実は翼で風を受け、回転しながら遠くへと運ばれていきます。

ニワウルシの用途は？

ニワウルシが日本に渡来したのは明治時代初めのこと。とても成長が早くて丈夫なため、街路樹や公園樹として植えられてきました。また樹皮や根は殺虫剤の原料としても利用されました。

ヤマモ科のシンジュサン、そしてそこから生まれた飼育品種のエリサンは、まゆから「絹糸」が採れます。これらの幼虫はニワウルシの葉を食べるため、エサ用に栽培されることもあります。

初夏、
枝先に
花の穂
がつく

雄株と雌株があり
花のかたちは少しちがう。
写真は雌花

果実は次第に赤くなり、
完熟すると茶色くなる

種子には翼があり、
回転しながら飛んでいく

種子

よく翼

冬は
とても
大きな
葉痕が
よく
目立つ

冬芽
よく
葉痕

小葉は13～33枚

小葉

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介！

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA>

